

福島県における子宮がん検診の

無料クーポン券利用状況と検診成績について

(財) 福島県保健衛生協会 ○寅磐 亮子 荒木 由佳理 佐藤 奈美
 佐藤 美賀子 柴田 眞一 森村 豊
 菅野 薫 鈴木 仁

目的

女性特有のがん検診推進事業の一環として、子宮がん検診受診率向上対策の一つである無料クーポン券（以下クーポン）による子宮頸がん検診が 2009 年度から実施された。今回、福島県におけるクーポンの利用状況と検診成績との関連について検討したので報告する。

対象と方法

クーポンによる子宮頸がん検診が実施された 2010 年度とクーポン制度がなかった 2008 年度の受診者を対象とし、クーポン対象年齢とクーポン対象外年齢とに分け、次の項目について比較検討した。

- 1) 受診者数および受診率
- 2) 初回受診者の状況
- 3) 検診成績

なお、クーポン対象外受診者は 44 歳以下のクーポン対象外年齢（以下対象外 44 歳以下と略す）、45 歳以上のクーポン対象外年齢（以下対象外 45 歳以上と略す）に細分類した。また、受診率を算出する際の受診対象者は福島県ホームページの掲載資料を用い、5 歳年代別女性人口を 5 等分した。逐年検診自治体はその 5 等分数を用い、隔年検診自治体ではその 1/2 を対象として用いた。有意差は Mann-Whitney の U 検定により、危険率 0.05 以下を有意差ありとした。

結果

1) 2010 年度の受診者数は 79,674 名で、クーポン制度がなかった 2008 年度の受診者 65,390 名より 14, 284 名増加していた。年齢別の受診者数 (図 1) ではクーポン対象年齢層の受診数が著しく増加していた。クーポン対象は 21 歳 : 1,195 名、26 歳 : 2,467 名、31 歳 : 3,062 名、36 歳 : 4,348 名、

41 歳 : 3,320 名、合計 : 14,392 名であった。これは、2008 年度の計 3,296 名 (21 歳 : 45 名、26 歳 : 705 名、31 歳 : 398 名、36 歳 : 1,571 名、41 歳 : 577 名) に比して 11,096 名の増加であった。受診率 (図 2) においても、クーポン対象年齢層の受診率は、21 歳 : 0.7%⇒18.2%、26 歳 : 7.2%⇒25.1%、31 歳 : 4.8%⇒36.7%、36 歳 : 12.3%⇒33.9%、41 歳 6.9%⇒39.6%と他の対象外年齢よりも突出して上昇していた。

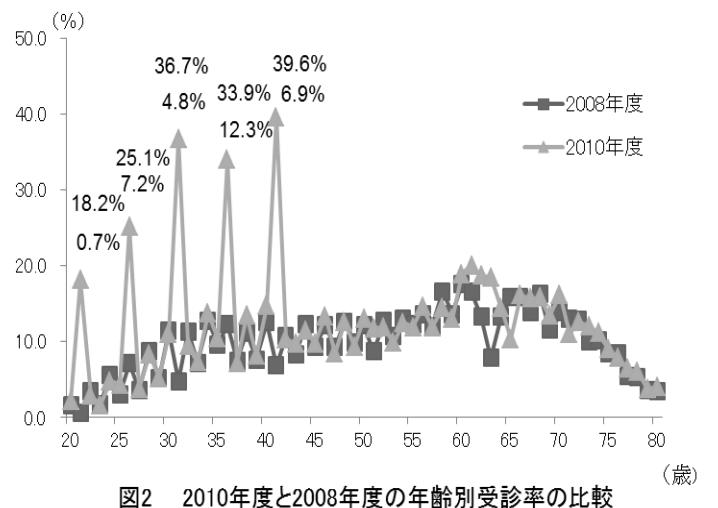
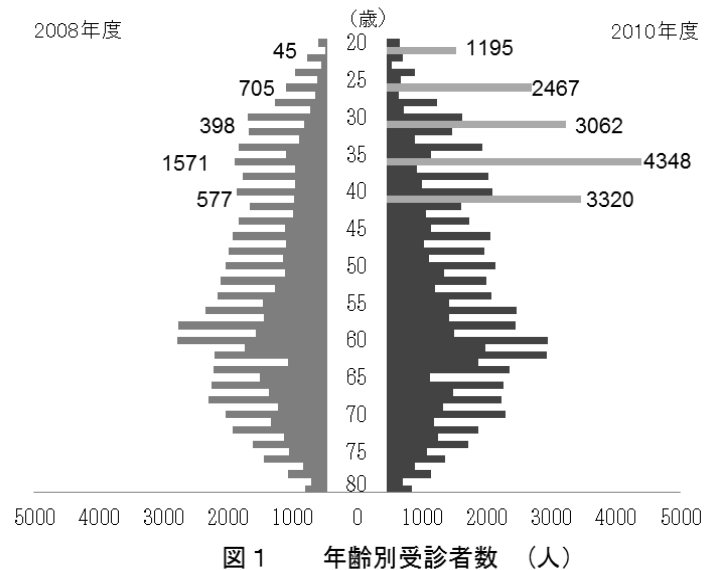


図2 2010年度と2008年度の年齢別受診率の比較

次にクーポン対象年齢と対象外 44 歳以下及び対象外 45 歳以上における受診者数および一年齢当りの受診者数（以下平均受診数）を表 1 に示した。2010 年度のクーポン対象年齢の平均受診数は 2,878 名で、2008 年度の平均受診数 659 名よりも有意に多かった（ $p=0.0163$ ）。また、対象外 44 歳以下・対象外 45 歳以上の平均受診数は、いずれも 2008 年度と 2010 年度間で有意差がみられなかった（ $p=0.968$ 、 $p=0.632$ ）。

2) クーポン対象年齢における初回受診率（図 3）は、2010 年度は 21 歳で 98.8%を占め徐々に減少傾向にあるが、2008 年度の初回率を 1 とした場合の増加率は各年齢共に高くなっており、特に、36・41 歳で大きく上昇していた。

3) 2010 年度と 2008 年度の要精検率及び CIN2 以上の異型上皮と子宮頸がん、0 期・I a 期の早期がんの発見状況を表 2 に示した。クーポン対象年齢を含む 44 歳以下の発見率は、全体より高い値を示しており、さらに、2010 年度の頸がんの発見状況は 2008 年度と比較して若干の増加がみられた。

考察とまとめ

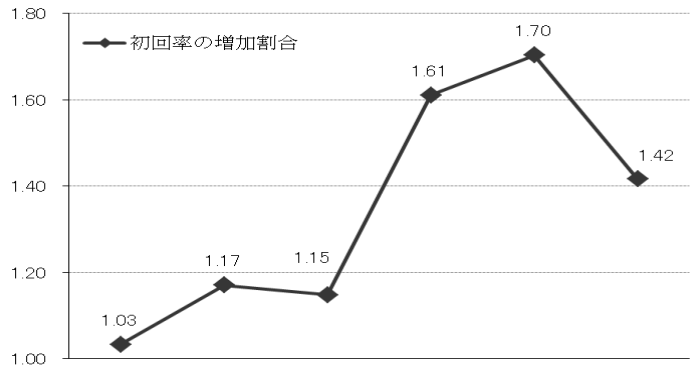
無料クーポン券の配布により 2010 年度の受診者数は 2008 年度と比較し 14,284 名増加していた。特にクーポン配布年齢で受診率の大幅な増加がみられ、また、初回受診率が上昇していた。これは、無料クーポン配布が、これまで検診を受けなかった若い世代の人達に検診受診の契機を作ったことを示していると考えられる。

また、クーポンによる検診が実施された 2010 年度・クーポン制度のなかった 2008 年度のいずれにおいても、クーポン対象年齢を含めた 44 歳

以下の年齢層で CIN2 以上の異型上皮や早期がんを含めた子宮頸がんが高い発見率を示していることから、44 歳以下の年齢層の受診率を高めることは重要であると考えられた。今後、受診率向上を目指すためには、若齢者が継続的に検診受診の機会を持つことができるよう、広報や啓発にさらなる工夫を加える必要があると思われる。

表1 クーポン対象年齢とクーポン対象外の比較

| | 年度 | 受診者数(人) | 1年齢あたりの平均受診数(人) | 最少~最多(人) | P 値 |
|----------|------|---------|-----------------|-------------|----------|
| クーポン対象年齢 | 2010 | 14,392 | 2,878 | 1,195~4,348 | P=0.0163 |
| | 2008 | 3,296 | 659 | 45~3,296 | |
| 対象外44歳以下 | 2010 | 16,054 | 802 | 94~1,804 | P=0.968 |
| | 2008 | 15,655 | 782 | 102~1,538 | |
| 対象外45歳以上 | 2010 | 49,228 | 1,346 | 287~2,749 | P=0.632 |
| | 2008 | 46,439 | 1,273 | 277~2,561 | |



| 年度 | 21歳 | 26歳 | 31歳 | 36歳 | 41歳 | 合計 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 2010 | 98.8% | 90.8% | 79.9% | 76.0% | 67.6% | 79.3% |
| 2008 | 95.6% | 77.6% | 69.6% | 47.2% | 39.7% | 55.8% |

図3 クーポン年齢初回率と初回率の増加

表2 CIN2以上の異型上皮、頸がん・早期がん 発見数(率)

| | 実施数(人) | 要精検数(率) | | 精検受診率 | CIN2以上の異型上皮 | | 頸がん | | 早期がん | | |
|------|-----------------|-----------|--------|----------|-------------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|
| | | 数 | 率 | | 数 | 率 | 数 | 率 | 数 | 率 | |
| 2010 | 総受診者数 | 79,674 | 581 | 0.73% | 92% | 136 | 0.17% | 86 | 0.11% | 72 | 0.09% |
| | 44歳以下(クーポン年齢含む) | 30,446 | 453 | 1.49% | 92% | 125 | 0.41% | 65 | 0.21% | 54 | 0.18% |
| | 〔クーポン対象年齢〕 | 〔 14,392〕 | 〔 227〕 | 〔 1.58%〕 | 〔 88%〕 | 〔 61〕 | 〔 0.42%〕 | 〔 30〕 | 〔 0.21%〕 | 〔 24〕 | 〔 0.17%〕 |
| | 対象外45歳以上 | 49,228 | 128 | 0.26% | 91% | 11 | 0.02% | 21 | 0.04% | 18 | 0.04% |
| 2008 | 総受診者数 | 65,390 | 437 | 0.67% | 95% | 109 | 0.17% | 52 | 0.08% | 41 | 0.06% |
| | 44歳以下(クーポン年齢含む) | 18,951 | 302 | 1.59% | 96% | 88 | 0.46% | 34 | 0.18% | 31 | 0.16% |
| | 〔クーポン対象年齢〕 | 〔 3,296〕 | 〔 51〕 | 〔 1.55%〕 | 〔 94%〕 | 〔 11〕 | 〔 0.33%〕 | 〔 5〕 | 〔 0.15%〕 | 〔 4〕 | 〔 0.12%〕 |
| | 対象外45歳以上 | 46,439 | 135 | 0.29% | 94% | 21 | 0.05% | 18 | 0.04% | 10 | 0.02% |